上南から武道館へ

上溝南高校フォークソング部に、90年代のロックシーンを切り拓いた2人がいた――。

渡部充一さん（9期生）

2人が高校2年生の頃の学内でのライブの様子。左端が飯田さん、右端が渡部さん（提供：渡部さん）

取材当日の渡部さん

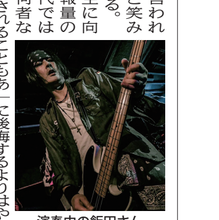
「上南で色々な人と多様なジャンルの曲を演奏してきたことが、今の仕事にも繋がっている」。1994年にロックバンド「DEEP」のメンバーとしてメジャーデビュー。これまでに布袋寅泰氏やINORAN氏など、名だたるミュージシャンの隣でギターを弾いてきた。「武道館にも立てたし、思い描いていた通りになっている」。当時の自分が今の姿を見たら「『それでいいじゃん』と言われそう」と笑み を浮かべる。

現役生に向け「情報量の多い現代では自分が何者なのか惑わされることもあると思うが、自由に過ごしてほしい」とメッセージを送った。

飯田成一さん（9期生）

2度の武道館公演を成功させたバンド「ZI：KI：LL」などのベーシスト。上南時代について、文化祭での演奏や「修学旅行中に喫茶店でウダウダしていた」と当時を懐かしむ。「良いことも悪いことも、やらずに後悔するくらいやってやってなんでもやってほしい。で、何か見つけられたら」

時代を築いた名だたるミュージシャンも足を運んでいた町田のライブハウス「プレイハウス」。2人もそこを拠点のひとつとし、切磋琢磨していた。彼らを知る先輩は「他にも上手い人は沢山いたが、2人は誰よりも努力家だった」と話す。



演奏中の飯田さん（本人提供）

聞くだけで今もワクワク

㈲髪遊び 大澤弘一さん（8期生）

紙遊び「南区吉祥」の大澤さん

「高校時代は人生の中で一番楽しかった」。今でも「上南」と聞くだけでワクワクするという。

現在は「Produce」など30店舗に及ぶ美容室を経営。高校卒業後、資格を取得し店舗で腕を磨いたのち、24歳で起業。「支えてくれた人たちがいるからこそ、地元に愛されるコミュニティーを作っていきたい」。創業時の思いは今も続いている。

授業には「意味がない」と思っていたあの頃。成績は「345人中340位」で、何より友達と過ごす時間や部活を大切にした。「今も学校の前を通るだけで当時吹いていた風を思い出す」

キラキラしていた3年間。「未来より今を大事に。高校時代はかけがえのない時間だから」と後輩たちへメッセージ。

はまった実験 指導の道へ

実習指導員 佐藤敬子さん（6期生）

佐藤さん

「当時、プールがない学校だったので。私以外にもそういう子はいましたよ」。進学の動機について笑顔で話す。その後、プールは設置されるも何とか「免れた」。マラソン大会を完走すると進呈された「健康手ぬぐい」は今でも仲間との語り草。教室が暑く「涼しい廊下で過ごした」ことも良い思い出。

夢中になったのは実験の授業だ。探究心は途切れず卒業後、理科の実習指導員の道へ。県内の高校を転々とし、1年4月、上溝南高校の1期生として入学しました。1年生の時には現在の校舎はなく、相原高校の敷地に建てられたプレハブ校舎で学びました。このプレハブ校舎も城山高校の1期生が使った校舎に移りましたが、体育館もプールもなく、夏は上溝にある市営プールで水泳を、グランドも整備中でしたので、体育の時間には石拾いをやり、飽きたころは相模川までランニングしてきたことを、今でも鮮明に覚えています。校歌も卒業式の時に初めて聴きました。そんな高校生活でしたが、1期生は4クラス160名しかいなかったことで強い絆で結ばれ、今でも上南一期生会として集まっています。当時の先生たちも参加してくれます。また、当時指導をお願いした先生たちの影響もあり、私自身も教育の道へ。1年間のサッカー部での顧問を経て、新設校の開校準備にも携わりました。あれから50年を経ったのですね。創立50周年、本当におめでとうございます。卒業生の一人として、これからも発展を祈念しています（橋本朋樹・1期生）▼駅寄りの駅舎を完走してもらった南手ぬくい。本道のちを朝一番周走りました。1、2年生のこと完走しました。1枚は

自由な校風で個性育つ

猪熊寝具店 猪熊美奈子さん（9期生）

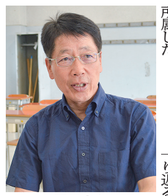
猪熊寝具店（中央区上溝）の猪熊さん

在籍した2年1組は「くれいじーくらぶ」という別名を持つ賑やかなクラスで、学級委員とはいえ、ボスに就きクラスを盛り上げた。当時の仲間とは現在も年に1回集まるほど仲がいいという。「超楽しかった。毎日、楽しめそうなことを考えていた。上南は自由な校風を持っているので、私の個性が解き放たれた」

小・中学校も上溝の学校で、現在は上溝で親戚いれば困ったことがあっても同級生がすぐに助けてくれる」。地元と同級生への愛を惜しみなく語った。

陸上 今も母校で指導

元教員 関口一雄さん（1期生）



関口さん

50年前に入学した1期生であり、今も学校に関わっている。

清新中ではバレー部で活躍。運動神経が優れており陸上大会の棒高跳びで、市で2番目にもなった。熱心な教員に誘われ上溝南高校では陸上部に所属した。

2年生の時、1500mSCで県2位を記録。日体大へ進むと100人ほどの部員の中から、箱根駅伝の現在の地でなく、橋本駅前の相原高校の一角に設けられたプレハブだった。当時の相原と言えばおり陸上大会の棒高跳びで、市で2番目にもなった。熱心な教員に誘われ上溝南高校では陸上部に所属した。

上南の初年度の校舎は現在の地でなく、橋本駅前の相原高校の一角に設けられた「プレハブだった。当時の相原と言えばおり陸上大会の棒高跳びで、市で2番目にもなった。熱心な教員に誘われ上溝南高校では陸上部に所属した。「同じグラウンドで練習。肩身が狭かったです」と笑って振り返る。

「ずっと仲間を大切に」

相模福祉村理事長 赤間源太郎さん（7期生）

社会福祉法人相模福祉村（中央区田名）の赤間さん。同窓会前会長

陸上部への憧れで上溝南高校を目指した。清新中時代は100メートルを走った記憶。「得意」としていた。晴れて入学。ただ、部の見学へ行くとみんな「坊主」で驚いた。「洒落っ気があったから（笑）」と入部を断念した。

それでもすぐに、新しい楽しみを見つけた。「仲間と何かをするのが好きで。目立ちたがり屋でもありました。ヤンチャ。誰もいない校庭でサッカー。体育祭が終わったあと、バク転などのパフォーマンスを披露。仲間とエンジョイ。学校に足を運んでいるのが楽しかった。「上南の子は（自分と違って？）少し控え目かな。ただ人のたいしゃ。人の心の拠り所になっている。この間、生徒を見守る中で得た印象だ。その上で自身の青春時代を生き活きさせるために、やはり仲間を大切にしてほしい。高校時代にできた友人はとても尊いものでずっと心の拠り所になる存在になる」と語った。

「良かった」あの時の選択

大野重電土木 若月尊史さん（15期生）

大野重電土木（緑区大島）の若月さん。同窓会書記

本当の志望校は違っていた。「今も谷口浩美さん（元五輪選手）とは交流があります」

高校教諭となり12年間、母校で指導をした。進職後はインストラクターとして再び後輩たちを見守っている。「育てもらったこともあり、いつもより愛着がある」と指導には熱が入る。

実は進学を決めた当時、まだ学校名が決まっていなかったそう。「『相田高校』になるのかなと思っていました。『上溝南』になりましたが、『みど』が多くて呼びづらかったですね。『かみなん』と略すようになって良かったです」

「エントリー」に入った。「今も谷口浩美さん（元五輪選手）とは交流があります」

高校教諭となり12年間、母校で指導をした。進職後はインストラクターとして再び後輩たちを見守っている。「育てもらったこともあり、いつもより愛着がある」と指導には熱が入る。

実は進学を決めた当時、まだ学校名が決まっていなかったそう。「『相田高校』になるのかなと思っていました。『上溝南』になりましたが、『みど』が多くて呼びづらかったですね。『かみなん』と略すようになって良かったです」

見開き特集 私と上南

第3シード校になるレギュラーとして全力で挑んだ事は今までにもあった。あの時は試合はなく、相原高校の敷地に建てられたそうなのですが、橋本からプールまで通うことになって来てしまい、遅刻を聞くために降りてきたとのことでした。今の代だとSNSにたくさんの試合はなく、相原高校の敷地に建てられたプレハブ校舎で学びました。このプレハブ校舎も城山高校の1期生が使った校舎に移りました。1年生から使った校舎に移りました。1年生から使った校舎に移りました。1年生から